



# TOKYO CHUO SHIN ROTARY CLUB 東京中央新ロータリークラブ週報

例会日 毎週月曜日(12:30~13:30) 会場 帝国ホテル及びオンライン  
 会長 山下 江 幹事 福元 智子  
 事務局 〒104-0061 中央区銀座8-11-12 正金ビル2F  
 TEL 03-5537-0270 FAX 03-5537-0271 <https://tokyochuo-new-rc.jp>

2022-23年度 国際ロータリーテーマ 「イマジン ロータリー」

## 例会報告 第856回 2022年8月22日(月) ハイブリッド例会

出席率 56.86% 出席+接続会員数29名+メンバー0名  
 (正会員59名-休会8名)

### 🎯 開始 (杉原SAA 委員司会担当)

定刻となりましたのでこれより第856回例会を開催致します。

本日の例会の様子は当クラブのHPの記録のため録画致しますので、ご参加の皆様は、予め個人情報の許諾をお願い致します。



### 🎯 山下江会長 点鐘挨拶

皆様こんにちは!

本日はコロナ激増のなか、リアル例会に参加いただき、ありがとうございます。オンラインでのご参加のみなさんもありがとうございます。

本日卓話をしていただく関西大学の白石先生、ようこそいらっしゃいました。卓話を楽しみにしております。中央大学ローターアクトのみなさん、ようこそ、いらっしゃいませ。みなさんご存知のアデランスの津村社長、ようこそ、いらっしゃいました。例会を楽しんでいただければと思います。

さて、当クラブでは、コロナ激増のなか、ホテルでのリアル参加とオンラインによる参加というハイブリッドで例会を開催しております。当クラブでも私を含め結構な人数がすでにコロナに感染しております。昨日岸田首相も感染したとのこと。ほくの周りでは重症の例はほとんど聞かないのですが、持病が再発悪化して苦しんでいる方や高齢のご家族に感染して大変だった方もいらっしゃいます。

政府の方針は、コロナ対策と日常生活の維持の両方を推進していく方針のようで、国民に対しての行動制限の要請はせず、コロナを、現在の重篤な2類感染症からインフルエンザ並みの5類感染症に変更していくことが検討されています。

新聞報道などによりますと、かつてのコロナ行動制限などにより、自殺者が約8,000人増加したとみられるとのこと。人間は人と人のかかわりがあってこそ、生きていける生物だということを改めて実感しています。

ロータリークラブは、その人と人のかかわりを大切にして、お互いが人生を豊富にしていくことのできる組織です。ですから、親睦と奉仕がその根幹となっております。コロナ禍の中で、その実施が困難な面もでて

きていますが、コロナを乗り越えながら、親睦と奉仕をこれからも実現していきたいと思っております。

このハイブリッド例会の実施には、その準備と実行に、リアル例会のみでは必要のない多大な労力がかかっています。例会運営チーム、WEB担当チームのみなさんには本当に感謝します。

今年度の当クラブの会長方針は「せっかく入ったのだから、ロータリーを大いに楽しもう!」です。みんなで運営するクラブ、委員会を中心としたクラブ活動などの実施を今一度確認し、楽しい年度にしたいと思います。会員のみなさまのご協力をお願いします。

それでは第856回例会を開催致します。

### 🎯 ロータリーソング

(ソングリーダー: 圓井会員)

「われらの生業」



### 🎯 卓話者・ゲスト発表 (安原SAA 委員長)

ハイブリッド例会によるご参加下さいました。本日のゲスト6名です。

- ・関西大学教授 白石真澄 様
- ・中央大学RAC 会長 宮下嵩将 様
- ・中央大学RAC 幹事 小嶋利尚 様
- ・中央大学RAC 国際奉仕副委員長 大平萌々葉 様
- ・中央大学RAC 専門能力開発委員長 酒本野乃 様
- ・山下会長ゲスト 津村佳宏(つむら よしひろ) 様



山下 江 会長 アデランスの津村社長様  
 本日はご参加頂きありがとうございます。  
 例会を楽しんでください  
 関西大学教授の白石先生、本日は卓話  
 を楽しみにしております。  
 宜しくお願いします。

大盛 敬子 会員 コロナに気を付けたいと思います  
 太田 一彦 会員 対面例会続いていて嬉しいです  
 高橋 肇 会員 大分涼くなったので ニコニコします。  
 田中 結加 会員 本日は人生90年時代として白石真澄先生  
 より学ばせていただきますのでニコニコ  
 します。

ここに合計 11,000 円

### 米山財団委員長報告(岡田会員)

米山財団は日本のロータリークラブ独自の奨学金です。日本に留学されている外国人を対象に奨学金をお支払いしております。



日本と世界の架け橋となる学生を対象に、奨学金を拠出しています。

本年度は、東京中央新ロータリークラブは世話クラブともなっております。日本の文化にも親しんでもらいたいと考えています。

本年度の計画としては、10月の米山月間の時に、卓話として米山委員長をお呼びして、米山奨学金についてのお話しをしていただきます。

### 会員増強委員長報告(川口会員)

今回のクラブ協議会では会員増強について話し合う事になっておりますので宜しくお願いいたします。田中バスターナーにお話し頂くことになっております。その時に冊子「ロータリークラブに入ろう」を持参頂くようお願いいたします。



### 幹事報告(福元智子幹事)

- 育成園の夏祭りについて。ここ2年はコロナで中止でしたが、今年は開催の予定です。8月27日(土)3時から5時の予定ですが、飲食はなしで子ども達の出し物がある予定です。ご参加の方は事務局までお願いいたします。
- ガバナー公式訪問について。9月29日(木)親クラブとの合同例会です。お食事の関係がありますので、出欠をとりますため事務局までご連絡をお願いいたします。



## 「人生90年時代、地域をどう創る」

関西大学教授 白石真澄 様



### 【卓話者プロフィール】

大阪府生まれ。大阪府立千里高等学校を経て、関西大学工学部卒業、同大学院工学研究科修了。

政府各種委員会委員、コメンテーターとしてテレビ出演多数、子育てや共働き生活、女性の育児と仕事に関する著作がある。

### 【紹介】(田中結加 会員)

千葉ではマザーテレサともいわれ、自宅の近所のお付き合いをさせていただいている白石真澄先生をご紹介いたしま



す。私は経営者として、そして女性としての師匠として尊敬しております。白石先生、どうぞ、宜しくお願いいたします。

### 【卓話】

- 皆さまこんにちは。関西大学の白石真澄でございます。親友でもあります田中結加さんにコロナ禍にも関わらずお招きいただき、感謝申し上げます。

先ほど、田中さんご紹介の中にありましたが、私が何故マザーテレサと言われているかと申しますと、私は学生の単位をあまり落とさないのです。野球部の子が試合があるというところとわかったという事し、研究室の掃除を手伝ってくれた子には多少出来が悪くても単位をあげることにしているので、学生からはマザーテレサと言われています。

- 日本は、他の国が経験しない、超高齢化社会。介護は寝たきりモデルでしたが、今の介護は認知症の問題が大きくなっています。また、高齢者の社会的孤立とどのように向き合うかという問題。地域でできることはたくさんあると思っています。

日本は後40年後には、国民の2.6人の一人が65歳以上になります。また、高齢者の一人暮らしが非常に増えてまいります。バリアフリー、ユニバーサルデザインに関しては徐々に整備が進んでいます。

皆さん、認認介護、老々介護という言葉をご存知でしょうか?今の日本ではこのような状況が進んでいます。2025年には700万人という人が認知症になると言われています。

さて、認知高齢者の問題は、短期的な記憶が覚えられないということです。

25年前の事は覚えていても、おととい食べた晩飯の内容を覚えていられないということです。

- 私の住んでいるマンションで向う軒上下の会というのことができました。これは何かというと、皆で声をかけあおうという活動です。まさかの時に、役割を果たすのはご近所の方です。ある日、私在家の近くで車がないと叫んでいらっしゃる方がおられました。暑い日でしたので、お水を差し上げて、このあたりは同じような風景ですので、一緒に探しましょうとお探しいたしました。その方とお話をしていると、その方のおっしゃることがなんとなく脈絡がないことがわかりました。私も認知症の研究を長くしておりますので、5分くらいお話しをすると、認知症の方がわかるのです。そこで、私の手には負えないことがお話しの中かでわかりましたので、最寄りの交番にお電話をして、この方は自分の車がないとおっしゃっています。昨夜は、近くに息子さんがいらっしゃるの、近くのホテルに泊まったとのことだとお伝えいたしました。その電話の中で、その方に息子さんの電話番号を探して息子さんにお電話したほうがよいということになりました。

その話を私の近所の友人にお話しをしたら、私も同じような経験があるという同じマンションの方々がいっぱいいました。そのようなことから、近所で困ったような方がいたら、皆でなんとかしないとイケないのではないかという話になりました。そこで月に1回の茶話会をしながら、近所のどこに要介護の方がいるとか、一人暮らしの人がいるという情報をご近所で共有しようということになりました。民生委員の方をお願いして、お伺いすると、それは厚生労働省の仕事なので、地域の人には出せませんと断られました。そこで、自分たちでやるしかないと立ち上がったわけです。

先ほど、こちらの山下会長は、せっかく出会った人たちとの関わりを大切にすると仰いました。文字通り、次のようなことだと思ふのです。

まずは、家族が非常に小規模化をしています。また、単身・高齢者夫婦世帯が増加しています。また、介護保険というものが出来ましたが、全てお金なんですね。しかし、こんなことはいちいちお金を払ってまでやることではないというようなサービスもたくさんあるわけです。そういう時に、ご近所のちょっとした助け合いが有効になってまいります。また自然災害の時もそうですが、高額な商品を自宅訪問をして売りつけるようなこともありますので、ご近所のちょっとしたサービスや情報共有が非常に大事な時代になったわけです。

これらのサービスを私はインフォーマルサービスと名付け、多様な主体による、介護保険サービス以外のサービスを提供することを考えています。例えば、ちょっとお掃除を手伝うとか、お買い物に使うとか、交流の場を提供するなどです。

介護を受けている人は何を求めているかという、たとえば介護保険をつかっても病院に連れて行ってもらい、その間待ってもらって、家に連れて帰ってもらうのに1万円くらいかかるわけです。そういうサービスを近所の人が、アプリか何かで手が空いている人がサポートするようなことができたかと思っています。

- 認知症の方が困っていることというのは、多くの方が友人や知人と会う機会が減ったり、外食に行く機会が減ったり、電車やバスにのったり、買い物に行く機会が減ったりしています。また、多くの方が、駅構内で迷ったり、バス停を探し出すことが難しいとか、ATMの操作が難しいとか、スマホが使えないなど、新しいデバイスが使えないというものです。

認知症の方が何を求めているかという、お買い物を手伝ってくれる人ですとか、銀行や駅などでも声でサポートして欲しいなど、簡単なことに手助けをしてほしいとのこと。

また、恐ろしいことにこの日本で1年間に17,479人もの認知症の方が行方不明になっています。これは毎年増えており、警察に届け出られたものだけです。

実際に私の新潟の友人でも、ご近所の方が冬に行方不明になり警察に届け出て、翌年の春に近くの畑の雪の下から見つかったという事例もございます。

実際にあった話では、兵庫で行方不明になったものが、大阪の老人ホームで11年もお世話になり12年たって、家族が見つけたという事例もございます。これは個人情報保護の観点から、県をまたがって、警察でも個人情報を取り扱うことが出来ないという弊害です。

毎日新聞の特別調査班の調査では2005年から2012年までの8年間で、認知症の疑いのある人の鉄道事故は149件で、115人がお亡くなりになられています。これらの事故にたいして、遺族の方に莫大な請求書が送られてくるのが現代社会であり、誰の身の上にも起こり得る出来事なのです。

そこで鉄道会社に私はアンケートをとってみました。鉄道会社で認知症に対応している企業は1社だけでした。しかし、今後は社会問題として鉄道会社として対応しなければいけないという認識はもっているようでした。

銀座にあるSWANというパン屋やヤマト財団が作った知的障害者が働けるパン屋さんです。認知症になった方も働ける場所を提供することも社会課題の一つだと思っています。

- 英国での事例をご紹介します。ビフレンジングサービスというサービスがあります。認知症、知的障害を持った人とお友達になるというサービスです。このサービスを提供するには、教育を受けた資格を持った人でないといけないサービスです。このことによる、社会的なインパクトは大きくなると思います。

日本にも同じようなサービスがありますが、全てお金を払うサービスです。

福岡では認知症フレンドリーシティ・プロジェクトというものがあります。これは、実際の認知症の方にむけた、見守りサービス。また認知症の人が働く場所を提供するサービス。などがあります。

大牟田市の事例では、安心して徘徊できる街づくりを標榜しています。この町の素晴らしいことは、徘徊SOSネットワーク模擬訓練というのがあります。この町の全小学校で年に一度、実施いたします。これは個人情報のこともありますが、例えば自分の夫が認知症であることを、近所の病院などに登録するわけです。身長や外見の特徴などを伝えておきます。それを使って、いなくなりましたという連絡が入ると、その時に着ていた洋服、外見の特徴などを使って、その時にカバンをもっていたかどうかなどの情報をご本人のお写真とともに、一斉送信をするそうです。そうすると、必ず30分以内に見つかるのだそうです。子どもも携帯を持っていますので、ITを使ってやっているわけですが、この町は23年かけて毎年シンポジウムや研修会など、認知症にたいする取組

を小学校の現場を使って実施してきているからこそ出来る仕組みなのだと思います。声をかけて、どうやって連れてくるかという研修もしています。

神戸市認知症の人に優しいまちづくり条例という例で最後にします。これは認知症の方が入ることが出来る、給付金を支給することができる救済制度（2019年度中の制度運用）で、上限3000万円を参考にして、年間400円程度の市民税超課税を検討しているとのこと。対象となるのは「認知症と診断された者」として責任能力の有無を問わずに救済する方針となっています。

- 最後、駆け足となりましたが、認知症の方が住みよい社会と地域を作ることの大切さをお伝えできればと思います。本日はご清聴ありがとうございました。

（要約文責 野呂洋子）

